

しいのき



昔の町屋を想う

名誉館長 三 隅 治 雄

かわいい町屋の模型から、江戸の昔を想像します。二階がせいぜいの木造家屋が軒を連ねて、さぞやどこも「富士見町」といえる、富士が望め、お天道さまと空の青さを満喫出来るすてきな住環境だったでしょう。そのお天道さまが暮らしの頼りで、しらじら明けには雨戸が開き、門口の掃除、打ち水、朝餉と、テキパキ片づけて、日のあるうちにと、職人・行商人は家を飛び出し、商家は店を開ける。現代の10時開店の風景などを見たら、きっと慨嘆するに違いない「早起きは三文の徳」を信条とした江戸の庶民です。朝昼の街路は、魚・野菜などの食料から日常雑貨・古物・玩具・菓子などの物売りの往来で賑わい、それも声張り上げての言い立て合戦ですから、さながら大道の話芸大会の券囲気。子供たちも車の横行もないからわがもの顔にはしゃぎまわる。

しかし、午後には職人も早々に仕事を終え、八つ刻（午後2時）には夕食をすませたというから驚きです。われわれのお八つはその名残で、日が落ちると現代の感覚からは、停電時の蠟燭よりももっと暗い、字も読めぬ灯芯2本の冥界で、明日の日の出が待たれる江戸の町屋でした。

文化財よもやま話

狐に化かされた話

狐に化かされた話をご存じでしょうか。もう今となつては、実際に化かされた経験のある方はあまりいらっしゃらないと思いますが、お祖父さん、お祖母さんから話を聞いたことがある、という方はまだまだ多いことでしょう。

中野区では、語り継がれてきた昔話・伝説・世間話を調査し、報告書としてまとめています。

(『中野の昔話・伝説・世間話』昭和62年、『続中野の昔話・伝説・世間話』平成元年 中野区教育委員会) 最近、その報告書を読んでいたら、あることに気付きました。それは狐に化かされた話をはじめとする狐にまつわる話の多くは、上高田に住む方々からお聞きしたものである、という事実です。この調査は中野区全域を網羅する形で進められ、千百あまりもの多種多様な話が、この時記録されました。狐にまつわる話は約二百近くありますが、そのうち上高田で採集した話が約三分の一を占めていました。地域によって調査密度に濃淡があるとはいっても、これは注目していきたい結果です。

さて、話に登場する狐ですが、これは人里近い山林に棲息するイヌ科の動物です。それは広く一般に知られているように、稲荷の使者と見なされてきました。また狐そのものを祀るという伝承も各地に多く、神の使いと敬われ、特に農耕に従事する人々からは、農耕神の示現を意味するもののように考えられていたと思われまふ。その一方で、狸やムジナ、猫などとならんで、人を病気にさせたり、だましたり、化けたりするとも考えられていたのです。それは、狐に対する信仰が変化し、信仰心が薄れるにしたがって、化ける、化かすという部分が強調されて残ったのだともいわれていますが、依然として狐は不思議な動物で、私たちはその詳細を知り得ていないといえるでしょう。

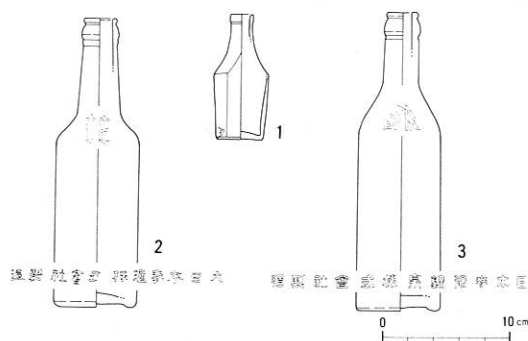
そして、狐に対する不思議さを感じるとともに、その狐にまつわる話を多く伝える上高田という地域にも関心は及びます。狐がよく出るという場所があったのでしょうか。狐火が見られた原とは、どのような土地であったのでしょうか。

大地に眠る歴史

無視してならない出土品

遺跡の調査をしていますと、それは様々な物が出土します。土器・石器・陶磁器などはもちろんのこと、最近まで使われていたジュースの瓶や缶詰の缶、使われなくなったガス管・水道管・植木鉢などは必ずお目見えする常連でもあります。これらは通常、遺物としては扱いませんが、思わず捨てそうになる出土品の中には意外にも歴史の真相に迫れるものもあります。

今回はそれらの一つであるガラス瓶を紹介しましょう。図に示しました三点の瓶は国立療養所中野病院跡地の発掘調査で検出されたものです。



▲国立療養所中野病院跡地出土 明治～大正期の瓶

1は明治40年代の味の素の最も古い段階の瓶です。これによって世界初の化学調味料がこの瓶に入れて売られていたことがわかりました。2は明治時代末期から大正時代初頭の大日本麦酒株式会社のサイダー瓶です。3は大正11年から昭和8年にかけての年代にあたる日本麦酒鑛泉株式会社のサイダー瓶です。大日本麦酒株式会社と日本麦酒鑛泉株式会社とともに、現在のサッポロ・アサヒ・エビスビールの前身となった会社です。

これらの瓶を観察していると、1の味の素の瓶のガラスの中に細かい空気の泡が認められます。これは製造過程においてきちんと空気抜きをしないで急いで製作されたことを示しています。このことからこの頃、味の素の需要が爆発的であったことがわかるわけです。

70年ほど前の病院に味の素やサイダーが用いられていたとは、意外な発見でした。

古文書つづり

窮状をるる書き述べて水を得る

今回は生活と生産に不可欠な水の話少々。

区内には、かつてあちこちに田圃がひろがっていました。そして川から離れた田圃では深刻な水不足に悩まされることもあったといえます。

水が足りない時、農業用水はどうしたのでしょうか。用水路のない田では基本的に天水（雨水）頼みしかありませんが、このやり方は天候の影響を受けやすく、大打撃を被ることもありました。特に梅雨時に雨が少ない年は苗代がうまく育たずこの時点で収穫が絶望的になります。そのため安定した給水が望まれていたのですが、用水を開削する場合は費用もかなり必要ですのでそう簡単に水路を新しく造るというわけにはいきません。

しかし足りない方としても死活問題ですから、なんとか用水の開削にこぎつけようとします。要求運動がうまくいった一例をご紹介します。

中野村の天水以外に頼るものがない田をもった

古文書（手紙）の写し。縦書きで、内容は用水開削の請願や苦情の訴えが読み取れる。右側には「中野村の天水以外に頼るものがない田をもった」という文句が確認できる。

▲冒頭部分。最終行に推敲のあとがみえる

人々から新規用水の要求があり、中野村と現在の杉並区にあった馬橋村・高円寺村の3村が用水をもつ村々へ話を通し、村同士の了解は済んだため代官へ開削資金の貸付を願出しました。その願出の下書を読んでみますと、水が足りなくていかに困窮しているのかを繰返し述べています。

このような願出では自らの境遇がどれだけひどいものであるかを強調しなくてはならないため、表現が実情よりも大げさになることが普通なのですが、その裏側にはそういった願出をせざるをえない事情が厳然とひかえています。文面に書いてあるまま受けとめるのは危険である一方で、そうした背景を忘れてもいけないのでしょう。

中野往来

井上円了の墓 江古田1-6-4 蓮華寺墓域内

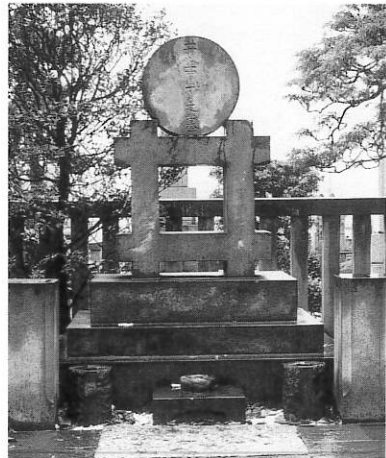
井上円了の墓は、円了自身のアイデアに基づいて設計されたもので、石の井桁の上に円盤状の石を乗せて、「井上円了」を示しています。また墓標の両側面には碑文が刻まれています。

円了は安政5年（1858）、越後に生まれ、明治から大正期にかけて、哲学の通俗化と哲学の実践を目指した哲学者です。

円了が東京大学を卒業した明治18年（1885）頃は、洋学が盛んで、儒教や仏教が衰退しつつありました。それを嘆き、東洋の学問の必要性を唱え、明治20年に哲学館（後の東洋大学）を創立、京北中学校を併設し、青年子弟の育英に努めました。また、人々を惑わす迷信の排除を目指して、妖怪を学問的に研究し、「妖怪博士」として有名です。

後に東洋大学の移転地として、豊多摩郡野方村和田山（現、松が丘一丁目）に1万5千坪の敷地

を購入しました。しかし、円了が病にかかり、この計画は中止され、かわりに哲学の実践道場として、哲学堂が造られました。哲学堂は、現在、中野区立哲学堂公園として残されています。円了自らの哲学に基づいて構想されたユニークな公園で、哲学にちなんだ建築物や空間が設けられていて、歩きながら哲学を学べるように作られています。



事業報告

各種事業経過

1997年4月～6月

事業名	内 容	期 間
企画展	「ミニチュアでみる江戸情緒」	5/1～6/1
史跡めぐり	「弥生町・南台コース」講師：立石昌氏（前中野区社会教育専門員）	4/19
歴史講座	鉄道で語る近代史	
	「鉄道の語る日本の近代Ⅰ」講師：青木栄一氏（駿河台大学教授）	6/7
	「鉄道の語る日本の近代Ⅱ」講師：青木栄一氏（駿河台大学教授）	6/14
	「時刻表からみた昭和史Ⅰ」講師：種村直樹氏（レイルウエイライター）	6/21
	「時刻表からみた昭和史Ⅱ」講師：種村直樹氏（レイルウエイライター）	6/28
文化財調査	新井・上高田地区民俗調査	継続中
埋蔵文化財調査	御嶽遺跡第二次調査報告書刊行作業	継続中
	御嶽遺跡第二次追加調査	4/1～
	旧国立療養所中野病院跡地遺跡調査	継続中
	江原二丁目民有地立会調査	12/11
	南台一丁目民有地立会調査	2/4
	東中野二丁目民有地立会調査	2/14
	野方三丁目民有地確認調査	3/13
	南台五丁目民有地確認調査	3/19
	本町三丁目民有地立会調査	4/12
	沼袋一丁目民有地立会調査	4/24

*民有地の立会および確認調査については1996.12～1997.4までとする。



▲区内小学生、資料館見学のひとこま

NEWS

*郷土学習相談室を開設

8月19日から22日まで、区内在住の小中学生を対象に郷土学習相談室を開設します。中野に関する質問にお答えいたします。

開設時間 10:00～12:00 / 13:00～15:00
(受付は9:30より)

NEWS

入館状況

1997年3月～5月（延76日間）

(人)

一 般	社教団体	学校教育	合 計
8,508	382	961	9,851

館蔵品展のお知らせ

館蔵品展「不思議な道具たち」を企画展示室にて開催。7月18日から8月31日まで。

人事異動

3月31日付館長村井登定年退職

▷後任4月1日付用地経理課より香西清着任

3月31日付資料館調査員吉田信一退職

▷後任4月1日付林明美着任

発行年月日 1997年7月1日

編集・発行  **山崎記念
中野区立歴史民俗資料館**

〒165 東京都中野区江古田4-3-4

☎ 03(3319)9221 FAX 03(3319)9119

(印刷物登録番号9中教社第2号)